



附属小のマスコット・キャラクターが決まりました！平和で一人一人が輝く学校という願いが込められています！

令和5年度 附属小学校だより

スマイル³ふぞく



第8号 令和5年12月22日（金） 校長 古野 祐一

「わくわくする学校」！

12月の人権集会の話の中で、いじめや差別が入り込む隙が無いくらい「ワクワクする学校」にしようという話をしました。そのためには、「こんなこと出来るかな」「これは無理かな」といった発想の枠を取り払い、夢のようなことを考えてみようと呼び、全児童にアンケートを取りました。一部を紹介します。

- ・1ヶ月に1回、全校で遊ぶ日があったら、もっと楽しい。
- ・ゲームをすることがあると嬉しい。
- ・一日中本を読めるという日が1年に1回ほしい。
- ・お菓子を食べるスナックタイムを作るといい。
- ・上級生が下級生を教える授業があるといい。
- ・1学期毎にクラス替えがあると面白い。
- ・子供が時間割を自由に決める日があるといい。
- ・ターザンロープを復活させたい。→ **12月中に完成します！**

一人で何十個ものアイデアを書いてくれた児童が沢山いました。読んでいただけで、ワクワクが止まりません。実際に子供たちが動き出して実現している内容も結構あります。このアイデアの中から一つでも多く実現できるように、子供たちと相談しながらボランティアを募ったり、委員会や学級・学年で取り組んだりしていきます。進めていく過程で、昨年度に子供たちが創りあげた北斗の子宣言にある「星空のように明るく、クラスを越えて助け合い、共に問題を解決する学校」を目指していきます。

今年も様々に御尽力をいただき有り難うございました。引き続き来年も、保護者の皆様の御理解と応援を賜りますようお願いいたします。

全国給食甲子園の結果報告！

第18回全国学校給食甲子園「調理コンテスト」では、「優秀賞」をいただく見事な結果でした。その他にも山崎栄養教諭は、食育授業のコンテストで「精励賞」を獲得、給食調理員の川元リーダーは、一人しか選ばれない「調理員特別賞（中野麗子賞）」に選出されました。忙しい通常の業務をこなしながら練習を重ね、挑んだ二人の努力が結果に結びついたことを大変嬉しく思います。まさに「一步前へ、何度も挑戦！」の体現です。山崎栄養教諭を中心に、附属小の調理員全員が、子供の命を預かる職責を果たし、安全安心を追求している質の高さが全国に認められたのだと誇らしく思います。新年も、子どもたちの食への意欲と関心が高まっていくよう、工夫を盛り込んだメニューや食育への取り組みを進めてまいります。



6年生が考えた出店で楽しむ1年生。



5年生全体で英語学習を活かしたイベント。



北斗の丘に新しく設置しているターザンロープ。



給食甲子園で健闘した山崎先生、川元さん。

※裏面に続きます！

北斗の感動

7月に完成したブランコに引き続き、ターザンロープの設置工事が行われています。放課後遊びやパートナー遊び人気 No.1の場所が帰ってきます。体育館改修工事も2月の完成に向けて大詰めです。現在、天井と壁の改修が終わり、床の工事に入っています。壁の色、床の色が以前より明るくなります。

教育活動の充実に加え、防犯カメラの設置や目隠しカーテンの設置、プールの濾過器交換など、子どもの安心安全を守る工事も行われました。

また、学校の自然環境についても整備が進められています。中庭の池では、本校理科部と大学の先生が協力して生態系を守る取組が行われています。水生生物が増え、休み時間になると網を持った子どもたちが観察に集まってきました。

芝生広場もチョープロ様の御好意で復活を遂げました。裸足で駆け回る1年生の姿が戻ってきました。その反面難しい問題も発生しました。

伝説のグラウンドキーパー

芝生の維持管理の難しさです。今年の夏、家庭用の芝刈り機を購入しましたが、あれだけの広い場所を刈るのは大変です。それに加え、酷暑の中の水撒き、色鮮やかな緑を保つためにも毎朝行うのですが、どれだけ水を撒いても、だんだん枯れていってしまいます。

そんな時、救いの手を差し伸べてくださったのが、芝生養生の際にお世話になった、本田さんです。本田さんはV・ナガサキ練習場を管理され、「伝説のグラウンドキーパー」と呼ばれています。そんな本田さんに、レクチャーしていただきました。それに加え、お仕事の合間に芝刈りにきてくださったり、芝の伸びを見てくださったりしていただいています。

このように、多くの方の支えがあり環境が維持されることは、本当に有難いことです。

「愛情をもって育てれば、芝もちゃんと応えてくれます。子どもと同じです。」本田さんの言葉が忘れられません。

教頭 橋田 晶拓

未来で輝く北斗の子

あなたは、どんな人？

「あなたの好きな食べ物？」「あなたの趣味・特技は何ですか？」「将来、どんな人になりたいですか？」「あなたにとって、今年の出来事ベスト3は？」

子どもたちの中で時折流行する「プロフィール帳」というものがあります。様々なデザインの用紙の中に様々な質問が並んでいます。「私自身」のことについて、容赦なく問われるのです。好きな食べ物くらいなら「とり肉！」と即答できるのですが、その他あれこれと問われると、いつも自分の中で迷子になってしまいます。つくづく、自分で自分のことがよく分かっていないんだと痛感したものでした。

さて先日、とある学級の席替えの様子を目にする機会がありました。

席替えには様々な方法があります。よく聞くのが、運を天に任せる方法。運命的な新しい座席に一喜一憂する姿はよくあります。しかしそんな中、その学級は、一旦仮決めした新しい座席について、配置や組合せが妥当かどうかを自分たちで吟味していたのです。よりよく学級の活動や学習を進めるために、これで行くのかという視点です。もちろん、特別に仲の良い友達の近くや教室のお気に入りの位置だと嬉しいものです。しかし、そういうことではなく、自分を含めた集団の特性を客観的に見つめ、よりよきを求めて判断するのです。

「隣の庭の芝は青い(花は赤い)」などのように、他人を見ることにまつわることは多く存在しますが、中には「人の振り見て我が振り直せ」のようなものもあります。このように、自己のみならず、取り巻く人や環境を見つめて物事を判断する経験が、これからの世の中では必要となってくるのだと考え、取組の工夫を行っています。

主幹教諭 才木 崇史

教えから学びへ

価値創造

先日、附属学校改革担当である長崎大学 木村国広教授による算数科・国語科の提案授業が行われました。授業後には、木村教授から、『価値到達型の授業』から『価値創造型の授業』への転換の必要性についてのお話を伺いました。「価値到達型の授業」とは、あらかじめ決められたゴールへの到達を目指す、教師が教えて覚えさせる授業。「価値創造型の授業」とは、習得した知識等を駆使して、新たなものを創り出すことを目指す、子どもが身に付け創り出す授業。つまり、「価値到達型」は教師が主語となり、「価値創造型」は子どもが主語となる授業ということです。まさに、「教えから学びへ」の転換を目指す本校の学びの在り方について後押しをしていただいたように思います。

本校では、2月の研究発表会に向け、各教科等において目指す授業像を描き、価値創造を目指しています。一部御紹介します。

- 物語を読む楽しさを追究する国語科
- 多様な視点で社会の在り方を考える社会科
- 試行錯誤を繰り返し、思いに合った表現を見いだす
図画工作科

これら目指す授業像を子どもと共有し、日々の実践の中で形にしていくことで、未来社会を創る力を育ててまいります。

教務主任 松尾 勇哉